

## ビーチバレーボール競技における危機管理

ビーチバレーボール競技は、自然の中でダイナミックに鮮やかに行われる魅力的なスポーツであると同時に、自然の恐怖や猛威が隣合せの競技でもあることから、自然災害への危機意識をもち、的確な対応をあらかじめ準備しておく必要がある。

各競技会および講習会・研修会等において、自然災害、火災、急病人(熱中症など)、けが人等関係者の生命の危機にも関わる予期せぬ事態の発生に際し、事前に関係者に適切な対処方法を伝えておく。現場においてそのような事態が発生した場合には、速やかにその対処方法を関係者に伝達して、安全を確保できるように、次に記載の事項について確認しておく。

1 大会責任者(実行委員長)は施設管理者と事業開始までに危機管理について打ち合わせを行い、施設の危機管理規定も確認する。また、避難動線や対応策等をチーム、役員、観衆等にも必ず周知する。観客には、会場アナウンス等で危機管理の対応を知らせることができるよう準備する。大会責任者は競技開始の有無、中断や再開を適切に判断する。

## 2 自然災害等への対応

## (1) 地震への対応について

- ① 避難経路や避難場所の確認、誘導(導線)の方法を明確にして、チーム、役員、観衆等、関係者の安全を確保する。
- ② 地震が発生した場合には、その震度を問わず迅速に状況の確認を行う。震度が大きかった場合には開催を一時中断し関係者の安全を確保するとともに、災害状況を確認した上で開催の継続を判断する。
- ③ 沿岸部において津波警報が発令された場合には、開催を中止し速やかに高台(近辺に高台が無い場合は津波避難ビル等)へ避難誘導する。津波注意報の場合は、競技を一時中断(関係者の避難誘導の準備)し再開を適切に判断する。

## (2) 台風や落雷への対応について

- ① 気象情報を的確に入手するとともに、地元自治体や消防署、漁協関係者などの意見を参考にしながら、競技開始の有無、中断や再開を適切に判断する。
- ② 高波(予め大潮や高潮、満潮等の情報を入手)に備え、競技用具等の避難方法についてもあらかじめ確認し、適切に対応する。
- ③ 落雷については、各種警報発令時はもとより注意報発令についても気象庁等の信頼できる情報を的確に入手し選手や役員等の安全を第一に考える。落雷の危険があると判断した場合には、速やかに既設の屋根がある建物内や車両内に避難させる。付近に既設の建物が無い場合は、落雷の危険性が低いと思われる場所にて待機させ状況に合わせ避難誘導する。競技開始の有無、中断や再開を適切に判断する。

(3) 光化学スモッグ等への対応について

- ① 気象情報を的確に入手するとともに、地元自治体や消防署などの意見を参考にしながら、競技開始の有無、中断や再開を適切に判断する。

(4) 熱中症対策について

- ① チーム、役員、観衆等、関係者に対して水分補給を促すとともに、日陰で風通しの良い場所をあらかじめ確認、確保しておく。
- ② 選手に対しては、特に十分な水分補給を促すとともに、熱中症の疑いがみられる場合には、競技規則を踏まえた上で、試合の続行について選手及びチーム役員に確認するなど、適切に対応する。
- ③ できるだけ冷却用の氷、生理用食塩水などを準備しておき熱中症患者への初期対応をマニュアル化しておく。

(5) 急病人・けが人への対応について

- ① 会場内に応急手当ができる場所(日影)や部屋を確保するとともに、事前に AED(自動体外式除細動器) 設置場所や救急病院の連絡先等を確認する。
- ② 病状により速やかに救急車を要請し、医療機関の対応に委ねるとともに、必要に応じて警察署や消防署とも連携する。(警察・消防については事前に挨拶をし連携要請を済ませておくこと)

(6) 警報・注意報発令時の対応について

- ① 気象情報を元に開催予定日において警報・注意報発令がされる可能性が事前に判断できる場合は開催の延期、中止を事前に告知する。事前に判断できない場合は当日の対応とする。
- ② 当日午前6時の時点で、大雨、防風、波浪などの警報が発令している場合は、気象情報を的確に入手し開催の延期、中断、中止を判断する。
- ③ 当日午前6時の時点で、大雨、防風、波浪などの注意報が発令している場合は、気象情報に基づき開催の可否を判断する。
- ④ 開催中は実行委員会の担当者が気象情報を常に確認し、警報が発令された場合は開催を中断、中止する。開催中に注意報が発令された場合は、気象状況を考慮の上、開催の継続を判断する。

### 3 競技場の安全管理等

(1) コート面の安全管理について

- ① ガラス片、空き缶、小石、貝殻等、安全に支障をきたす異物がないかチェックする。
- ② 通常ビーチバレーコートとして使用している砂浜等については、コート内数カ所をランダムに選定して、深さ 30 c m までふるいにかけるなど、適切な対応を図る。

- ③ 砂の温度を適時確認し、高温による火傷等を事前に防ぐため、サンドソックスの着用を促す。散水が可能な場合はコート面へ放水をするなど適切な対応を図る。

(2) 防球ネット・フェンス等の安全管理について

- ① 突起物等の有無を確認し、スポンジやタオル等で覆うなど、適切な対応を図る。
- ② 支柱をワイヤーで固定する場合には、当該ワイヤーにリボンなどで目印をつけるなど、ワイヤーの有無を把握できるように適切な対応を図る。

(3) 不審者や不審物、迷惑行為者への安全管理について

- ① 予め警察・消防・自治体への緊急連絡体制や避難誘導方法などの準備をしておく。
- ② 開場前に会場・周辺の不審物の有無などの安全確認を徹底する。
- ③ 会場警備の責任者を決め、できる限り巡回警備を行う。
- ④ スタッフウェアや腕章などの着用、看板やアナウンスなども活用し、来場者に「不審者・不審物・盗撮」への注意喚起を行う。
- ⑤ 危機発生時には来場者・選手・補助役員の安全確保を最優先する。
- ⑥ 負傷者等が出た場合は直ちに消防への通報を行い、できる限りの応急救護を行うとともに、安全な場所へ避難させる。負傷者の救護のため現場に近づく際は、二次災害の発生に十分注意する。
- ⑦ 危機の状況に応じ規模の縮小や中止も含め大会の継続について速やかに判断する。

#### 4 その他

(1) 保険の加入について

- ① 主催者として、参加者を対象とした死亡・入院・通院等に対応した傷害保険に加入する。
- ② 開催要項等において傷害保険の加入及び担保内容を明記することが望ましい。
- ③ 応急措置ならびに傷害保険以上の対応はできない旨を十分に理解して参加するよう周知する。

(2) その他(上記項目以外への対応)

- ① 代表者会議、開会式及び緊急時のアナウンス原稿を作成する。
- ② プログラムに避難経路略図等を記載することが望ましい。
- ③ 会場内に避難経路看板を設置することが望ましい。
- ④ 事業中断、中止、再開、延期等については安全を最優先し速やかに判断・伝達する。